

チェルフィッチュ

世界 9 都市国際共同製作作品

死者と生者の対立を描いた、チェルフィッチュ初の音楽劇
『地面と床』 札幌・仙台公演



岡田利規の日記やインタビューが
楽しめる地面と床・特設 WEB サイト
<http://jimen.chelfitsch.net/>

札幌公演

3月21日（土）・22日（日）

生活支援型文化施設コンカリーニョ

仙台公演

3月29日（日）

仙台市宮城野区文化センターPaToNa シアター

チェルフィッチュ最新情報はこちらでチェック

【WEB サイト】 <http://chelfitsch.net/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/chelfitsch>

【Twitter】 <https://twitter.com/chelfitsch>

【Instagram】 <http://instagram.com/chelfitsch>

● 公演・広報に関するお問い合わせ ●

株式会社プリコグ

E-mail : info@precog-jp.net TEL : 03-6825-1223

住所 : 150-0013 東京都渋谷区恵比寿 2-17-16-1F

担当 : 黄木 多美子、ケティング 菜々、兵藤 茉衣

世界9都市国際共同製作作品『地面と床』

チェルフィッチュ初の仙台公演・7年ぶりの札幌公演、開催決定！

2005年に『三月の5日間』で第49回岸田國土戯曲賞受賞を受賞して以降、国内のみならず海外での活動を積極的に展開してきた演劇カンパニー チェルフィッチュ。2013年に世界9都市国際共同製作作品として発表し、その後国内外合わせ14都市で上演された『地面と床』が札幌・仙台にて上演決定！

2008年『三月の5日間』で訪れた札幌には約7年ぶり、仙台へは今回が初進出となります。死者と生者の対立を描き、幽霊の出てくる『地面と床』は、これまで『三月の5日間』や『現在地』でも楽曲を使用したポストロックバンド・サンガツと共に創作した初の音楽劇。2011年の東日本大震災によって岡田利規が常に携帯するようになった「緊張感」から生まれた作品がこの2都市でどのように呼応するのか、是非ご期待ください。

●チェルフィッチュ●

岡田利規が全作品の脚本と演出を務める演劇カンパニーとして1997年に設立。05年『三月の5日間』（第49回岸田國土戯曲賞受賞作品）などを経て、日常的所作を誇張しているような／していないようなのだららとしてノイジーな身体性を持つようになる。チェルフィッチュ (chelfitsch) とは、自分本位という意味の英単語セルフィッシュ (selfish) が、明晰に発語されぬまま幼児語化した造語。07年クンステン・フェスティバル・デザール 2007 (ブリュッセル/ベルギー) にて『三月の5日間』が初めての国外進出を果たして以降、海外招聘多数。11年『ホットペッパー、クーラー、そしてお別れの挨拶』が、モントリオール (カナダ) の演劇批評家協会の批評家賞を受賞。つねに言葉と身体の関係性を軸に方法論を更新し続け、12年『現在地』以降はフィクションへの探求のもと創作に取り組んでいる。13年5月クンステン・フェスティバル・デザールの委嘱作品として『地面と床』を、14年5月 Theater der Welt 2014 の委嘱作品として『スーパープレミアムソフト W バニラリッチ』を発表。



『三月の5日間』



『現在地』



『スーパープレミアムソフト W バニラリッチ』

●主宰・岡田利規●

1973年 横浜生まれ。演劇作家／小説家／チェルフィッチュ主宰。その独特な言葉と身体の関係性を用いた手法により従来の演劇の概念を覆すとみなされ、国内外で注目される。05年『三月の5日間』で第49回岸田戯曲賞受賞。同年『クーラー』で「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2005一次代を担う振付家の発掘」最終選考会に出場。07年デビュー小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』を新潮社より発表、翌年第二回大江健三郎賞受賞。また、森美術館主催「六本木クロッシング展」に参加するなど多方面へ活動を展開する。12年より岸田國土戯曲賞審査員を務める。13年、初の演劇論集『逆行 変形していくための演劇論』を河出書房新社より刊行。



Photo: Nobutaka Sato

●音楽・サンガツ●

1997年に東京で結成。ジム・オールクプロデュースの1stアルバム『サンガツ』でデビュー。近年は曲そのものよりも曲ができる仕組みにフォーカスし、曲を作るためのレシピ作りに邁進している。出来たレシピはネット上で全公開／オープンソース化され、新しい音楽のOS作りを目指す。2012年著作権放棄を宣言、以来全ての音楽とのコラボレーション多数。チェルフィッチュの代表作『三月の5日間』のタイトルの元となり、2012年発表の『現在地』でも音楽を担当。



Photo : Yutaka Endo

世界9都市国際共同製作作品

『地面と床』

作・演出：岡田利規

出演：山縣太一 矢沢誠 佐々木幸子 安藤真理 青柳いづみ

音楽：サンガツ

●札幌公演● 3月21日（土）・22日（日） 生活支援型文化施設コンカリーニョ

●仙台公演● 3月29日（日） 仙台市宮城野区文化センター PaToNa シアター



Photo: Hirohisa Koike / Misako Shimizu

2013年5月の初演以来、ブリュッセル、ジュネーブ、ロッテルダム、京都、ダブリン、パリ、アテネ、ベルリン、トゥールーズ、横浜、ソウル、ポートランド、フランクフルト、山口で上演され、これまでにない新たな形の「音楽劇」として話題を呼んだ「地面と床」。“そう遠くない未来”の日本を舞台に死者と生者の対立を描いた本作は、バンド・サンガツも創作時から作品作りに関わり、音楽と劇が対等に存在する世界観に挑んだ意欲作です。

●作品によせて●

二〇一三年、もう二年前になりますね、あからさまな対立を無性に描きたかったのです。能という古典的な演劇形式を参考にした音楽劇のスタイルでそれをおこなうということも、はじめから構想のなかにありました。そしてこの『地面と床』をつくったのです。

この芝居では、死者と生者とが対立します。この国の未来に希望を持つものとそうでない者とが対立します。そのような対立の存在する社会に生きていることを、わたし自身がひしひしと感じていて、またそのことに困惑しています。だからそうしたことを描きたかったのです。

音楽劇として構想されている『地面と床』の上演は、演技と音楽のぶつかりあいです。俳優たちのパフォーマンスと、サンガツによるオリジナル音楽とが、全編にわたってせめぎあいます。

演技と音楽のこのせめぎあいは、両者は時間や場をつくりだすための、生産的なせめぎあいです。ですからこれは、対立と似たものかもしれませんが、それとは異なるものです。

だからどうしたというのか？ それがなんだというのか？

僕はそれを鮮やかに分析的にいうことはできません。ただ、それがなにか重要な、意義をもつことだとはおもっています。

岡田利規

●劇評●

『地面と床』は脆くありながら力強い作品だ。スローモーションになったり早送りになったり、時間を自由に操るこの作品の驚くべき力に私達は飲みこまれる。

<クラ・リーブル・ベルジック紙（ベルギー） 2013年5月25日>

●あらすじ●

舞台は、そう遠くない未来の日本。その国は衰退に向かっている。戦争が始まる気配につつまれている。女の幽霊が舞台上に現れる。生前二人の息子の母親であった彼女は、自分の墓を足繁く訪れる次男をいとおしく思う一方、彼女を意に介さない長男とその嫁のことが恨めしい。胎内に新しい生命を宿す長男の妻・遥は、子どもの未来のため日本に見切りをつけ、この国を出ようと画策している。そして、自らを社会から切り離し内的亡命者ようになった女が現れ、もはや誰にも伝わらない言葉となってしまう日本語を、舞台上であてどなくまくしたてる。この地面の下で安らかに眠っていたいというけなしの望みを抱く死者と、生まれいづる者の命を守ろうとする生者との利害が、近未来の不穏な日本を背景に、対立する。

公演概要

作・演出：岡田利規

出演：山縣太一 矢沢誠 佐々木幸子 安藤真理 青柳いづみ

音楽：サンガツ

美術：二村周作 / ドラマトゥルグ：セバスチャン・ブロイ / 衣装：池田木綿子 (Luna Luz)

舞台監督：鈴木康郎 / 音響：牛川紀政 / 照明：大平智己 / 映像：山田晋平

製作：クンステン・フェスティバル・デザール (ブリュッセル / ベルギー)

共同製作：Festivals d'Automne à Paris (パリ / フランス), Les Spectacles vivants – Centre Pompidou (パリ / フランス), HAU Hebbel am Ufer (ベルリン / ドイツ), La Bâtie – Festivals de Genève (ジュネーブ / スイス), KAAAT 神奈川芸術劇場 (横浜), Kyoto Experiment (京都), De Internationale Keuze van de Rotterdamse Schouwburg (ロッテルダム / オランダ), Dublin Theatre Festival (ダブリン / アイルランド), Théâtre Garonne (トゥールーズ / フランス), Onassis Cultural Center (アテネ / ギリシャ)

主催：チェルフィッチュ、プリコグ

共催：boxes Inc.

提携：NPO 法人コンカリーニョ、仙台市宮城野区文化センター

後援：北海道

協力：急な坂スタジオ

助成：芸術文化振興基金、公益財団法人北海道文化財団

企画・制作：プリコグ

●札幌公演●

【会場】生活支援型文化施設コンカリーニョ

【公演時間】3月21日(土) 19:00 / 22日(日) 14:00 (受付開始は開演の1時間前、開場は30分前)

【チケット】1月11日より発売中

前売：一般=3000円/学生1500円 当日：一般3500円/学生1500円 (全席自由)

【ご予約】

○生活支援型文化施設コンカリーニョ [メール] mail@concarino.or.jp 「公演名、公演日時、券種、枚数、お名前、電話番号、メールアドレス」を明記しお送りください。 [電話] 011-615-4859

○ローソンチケット [電話] 0570-084-001 (Lコード:13217)

○プリコグ [PC&携帯] <http://precog-jp.net/tickets/>

●仙台公演●

【会場】仙台市宮城野区文化センター PaToNa シアター

【公演時間】3月29日(日) 14:00 (受付開始は開演の1時間前、開場は30分前)

【チケット】1月11日より発売中

前売：一般=3000円/学生1500円 当日：一般3500円/学生1500円 (全席指定)

【ご予約】

○boxes Store [PC&携帯] <http://boxes-inc.jp/store/> [電話] 022-353-9755

○仙台三越 [窓口] B1 プレイガイド(10:00~19:00/年中無休) [電話] 022-221-4031

○せんだい演劇工房 10-BOX [窓口] box-10 受付(9:00~21:00/年中無休) [電話] 022-221-4031

○プリコグ [PC&携帯] <http://precog-jp.net/tickets/>